

(1)

# Isemonger (1929) *The elements of Japanese writing* について

岡墻 裕剛

## 1. はじめに

明治以降の急速な日本の近代化は、いわゆる「お雇い外国人」(Foreign Employees)と呼ばれた西洋人たちの力によるところが大きい。その影響は、政治・経済・法律・軍隊・教育など様々な場面で見られるが、思想や文学、そして日本語そのものといった日本人のアイデンティティやメンタリティに関わる根幹的な部分にも色濃く浸透した。

岡墻(2008)では、現代の日本人が日常的に使用する集合体としての漢字は、明治以降に確定的になったもので、特にChamberlain(1899)『文字のしるべ』が後の漢字文献に規範的な影響力を持ったことを述べる。同論では、現在のJIS漢字の原典の一つとなった情報処理学会漢字コード委員会「標準コード用漢字表(試案)」(1971)の主要な典拠である日下部重太郎(1933)『現代國語思潮』續編の「日下部表」と大西雅雄(1941)『日本基本漢字』のどちらの成立にも、『文字のしるべ』の影響があったと結論づける。

これらの文献は、間接的に『文字のしるべ』の収録漢字を利用したものであるが、今回、直接的に『文字のしるべ』の内容を利用して作成された文献であるIsemonger(1929) *The elements of Japanese writing*の存在が明らかとなった。本稿では、この文献を紹介するとともに、その土台となった『文字のしるべ』の“the four hundred commonest Chinese Characters”についても言及する。

## 2. 書誌情報

*The elements of Japanese writing*は、N. E. Isemongerによる著作で、1929年にJames G. Forlong Fund. Vol. VIIIとして出版された。また、1943年に再版の出版が確認できる。

本書の扉には“Commander N. E. Isemonger. / ROYAL NAVY (RETIRED)”(／は改行)とあり、著者はイギリス海軍の退役中佐であったことが分かる。Gerstle & Cummings(2017)によると、Isemongerは1921年から1943年までロンドン大学アジア・アフリカ研究院(SOAS: School of Oriental and African Studies)で日本語教師を行っていたとされる。また、オンラインのデータベースによって、そのフルネームと生没年を確認できる<sup>1</sup>。

---

1 情報の典拠は次のウェブサイトによる。

・Noel Everard ISEMONGER 1883-1951 / The Scadding Family  
<http://www.turtle.name/scadding/pages/indil2669.html> (2019年1月閲覧)

・Lieutenant Commander Noel Everard Isemonger / Lives of the First World War - WW1 Digital Memorial.  
<https://livesofthefirstworldwar.org/lifestory/6901741> (2019年1月閲覧)

本書の書誌情報をまとめると次のとおりである。

書名：*The elements of Japanese writing*

著者：Noel Everard Isemonger (1883-1951)

出版：1929（昭和4）年初版，1943（昭和18）年再版

出版：the Royal Asiatic Society

印刷：the Eastern Press Ltd., 1929 / Lowe and Brydone Printers Ltd., 1943

ページ数：vi, 253ページ

装丁：黒の皮表紙，背表紙“JAPANESE WRITING BY ISEMONGER”，

（再）緑の皮表紙，背表紙“N. E. ISEMONGER · THE ELEMENTS OF JAPANESE WRITING”

紙幅：縦271mm×横215mm，（再）縦245mm×横185mm

二つの版では印刷所と判型が異なるが，文章の異同は，背表紙の書名，扉の構成などのごく一部のページのみであった。また，初版には扉の前ページにJames G. Forlong Fund. シリーズの一覧と空白のページが存在するが，再版では削除されている。このように，基本的には再版はリプリントされた単なる縮刷版であり，両版の内容はほぼ一致している。

### 3. 資料構成

*The elements of Japanese writing*は，導入部のIntroductionと，本編であるSection IとIIからなる。目次により資料構成を示すと，次のとおりである。

INTRODUCTION	p.1
SECTION I.	
Chapter I Japanese Writing, a Summary	p.9
II <i>Kana</i> , Japanese Phonetic Writing	p.23
III KANJI, Readings, or How the Japanese Read the Chinese Characters	p.55
IV KANJI, Notes on Chinese Characters.	p.77
SECTION II.	
Concerning the Study of this Section	p.105
400 of the commonest Chinese Characters as originally selected and arranged by Professor BASIL HALL CHAMBERLAIN, with small amendments and re-arrangements	p.108

Introductionは，本書の執筆の経緯，構成についての解説，使用上の注意などを述べた部分である。その冒頭には次のようにある。

(3)

IN offering the present volume the author desires first to express his most grateful thanks to Professor B. H. Chamberlain for his kind permission to reproduce, largely in its original form, a section of his work “MOJI *no Shirube*, or A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing.” That invaluable book was about to be re-published but most unfortunately the work was destroyed in the disastrous earthquake of 1923.

ここで言及されているのはChamberlain『文字のしるべ』のことで、この文献は1899（明治32）年に初版が発行されたが、好評を博し1905（明治38）年には大幅な改訂と修正を加えた再版が発行された<sup>2</sup>。さらに、上の引用によると、『文字のしるべ』には第3版の出版が計画されていたことと、1923（大正12）年の関東大震災によってその計画が頓挫したことが示されている。つまり、*The elements of Japanese writing*は、『文字のしるべ』の第3版に代わって、その一部を再利用（reproduce）して作成された後継的な資料として位置づけることができる。目次のSection IIのタイトルからも、『文字のしるべ』の最も基本的な400字を修正・再配列したものであることが読み取れる。

この他にも、同書には随所でChamberlainと『文字のしるべ』の影響が色濃く確認でき、例えば、ローマ字による表記について、Chamberlainに従って“syllables of Chinese origin are printed in small capitals whilst Japanese syllables are shown in *italics*.”（=音読みはスモールキャピタル、訓読みはイタリックで示す）としている。この他にも、同書にはたびたび“practical”という語が出現するが、これは『文字のしるべ』の英題である*A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing*を強く意識したものであろう。

Section Iは、章扉では、“THEORETICAL AND PRACTICAL CONSIDERATIONS OF THE BASIS OF STUDY.”と題されており、その名のとおり日本語の文字と表記に関する概説である。前半はひらがなとカタカナの一覧表や歴史的仮名遣いによる表記について、後半は漢字にまつわる解説であるが、後半部分は同書のSection IIの漢字をNo.を示しつつ先取りする形での記述もある。また、各Chapterの冒頭にはSynopsis（=概略）として、パラグラフごとの内容を数語で示したものがあ

る。Section IIは、章扉では、“400 OF THE COMMONEST CHINESE CHARACTERS WITH SIMPLE EXPLANATIONS AND TEXT.”と題されており、上述のとおり『文字のしるべ』から漢字を収録し解説を行ったものである。個々の単字はそれぞれに1から400までの出現番号を示す数字を振り、1ページあたり縦5×横4マスの表を設けて、その中に例示字体とともに音訓と英訳を示す。この表は、見開きで左側になる偶数ページに配置される。右側の奇数ページには、上部に連続する単字の組み合わせによる熟語の音訓と英語で

---

2 版による異同の詳細については、岡墻（2008）を参照のこと。



(5)

ただし、100番ごとに、それまでに紹介した漢字を用いた、長めの日本語例文とその英語の読みと訳が示される。熟語と例文は、それぞれに対する英語の内容と対応するように番号が振られているが、単字に対する漢字番号が一貫しているのに対して、こちらの番号は一連のページごとに1から再び振られるという違いがある。

このように、Section IIでは、日本語の表記は左ページに、英語による解説は右ページにそれぞれ区別して配置し、その内容を番号によって対応させることで、瞬時に比較できるような構成を行っている。これは、元となった『文字のしるべ』にも見られない徹底した漢字学習のための工夫である。

#### 4. 関連する文献

本書については、*The Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland* No. 3 (1930) にレビューがある。その冒頭には、次のようにある。

This book would have been better entitled, "How to read Japanese," for its main purpose is to show how the Chinese characters, and their abbreviations the Kana, as used in printed Japanese, may be read, and translated into English.

つまり、活字化された日本語の文献を読み解く時に、漢字の読み方と英語での意味を知るために有用であるという解釈である。同レビューではこの記述に引き続いて、本書のSection IIの構成について詳述している。

また、山口 (2010) において、*The elements of Japanese writing* について、『文字のしるべ』の第3版に代わって出版されたという内容の記述が確認できる。本書が『文字のしるべ』の後継的な資料であると目されていたことが分かる。

一方、本書のINTRODUCTIONの前ページには、次のような参考文献の一覧 (LIST OF WORKS CONSULTED.) が示されている<sup>3</sup>。

1. ASTON, W. G., C.M.G., D.LITT. "A Grammar of the Japanese Written Language."
2. CHAMBERLAIN, Prof. B. H. "A Practical Introduction to the Study of Japanese Writing."
3. "A Handbook of Colloquial Japanese."
4. "Things Japanese."
5. LAY, A. H. "Chinese Characters."

---

3 題名の前の数字は稿者による。

6. LANGE, Doctor R. "A Textbook of Colloquial Japanese."  
(English Edition by C. Noss) .
7. INOUE, Prof. J. "Japanese-English Dictionary" (1920) .
8. TAKEHARA, Doctor T. "A Standard Japanese-English Dictionary."  
(Sept. 1924) .
9. Also the following native works: "Kotoba no Izumi" (1905) .
10. "Kanji Yōran" (1911) .
11. "Jigen" (1925) .

本書はこれらの文献を元に執筆されたことになるが<sup>4</sup>, 外国人による英語資料以外にも, 日本人によるものが複数掲出されている。一部情報が少ないものもあるが, これらは次の文献と同定して間違いはないだろう<sup>4</sup>。

- ①Aston, William George. 1904. *A Grammar of the Japanese Written Language*. 3rd edition, (Luzac's oriental grammars series, 5) , London: Luzac, Yokohama: Lane, Crawford.
- ②Chamberlain, Basil Hall. 1905. *A practical introduction to the study of Japanese writing (Mojī no shirube)* . 2nd edition, London: Crosby Lockwood & son, Yokohama: Kelly & Walsh.
- ③Chamberlain, Basil Hall. 1889. *A Handbook of Colloquial Japanese*. 2nd edition, London: Trübner, Tokyo: Hakubunsha.
- ④Chamberlain, Basil Hall. 1905. *Things Japanese, being notes on various subjects connected with Japan for the use of travellers and others*. 5th edition, London: Kegan Paul, Trench, Trübner.
- ⑤Lay, Arthur Hyde. 1909. *Chinese characters for the use of students of Japanese language*. 3rd edition, Yokohama, Shanghai, Singapor, Hongkong: Kelly & Walsh.
- ⑥Noss, Christopher. 1912. "A text-book of colloquial Japanese based on the LEHRBUCH DER JAPANISCHEN UMGANGSSPRACHE by Dr. Rudolf Lange." Revised english edition, Tokyo : Methodist Publishing House
- ⑦井上十吉 (1920) 『井上和英大辞典』 (*Inouye's comprehensive Japanese-English dictionary.*) , 至誠堂書店<sup>5</sup>
- ⑧竹原常太郎 (1924) 『スタンダード和英大辞典』 (*A Standard Japanese-English Dictionary.*) , 寶文館

4 複数の版があるものは, 比較的刊行年代が近い版の情報を掲出した。

5 オンラインでは, *The elements of Japanese writing*の本文のとおり1920年の刊行情報もあるが, 要確認。

(7)

⑨落合直文 (1900) 『ことのはの泉』, 大倉書店<sup>6</sup>

⑩文部省國語調査委員會編『漢字要覽』 (1908), 國定教科書共同販賣所<sup>7</sup>

⑪簡野道明 (1925) 『字源』縮刷版, 北辰館

文献を種類ごとに分けると, 文法書 (①③⑥), 漢字文献 (②⑤⑩), 和英辞典 (⑦⑧), 國語辞典 (⑨), 漢和辞典 (⑪), 日本事典 (④) と多岐にわたっていることが分かる。本稿では, 次章で特に②のChamberlain『文字のしるべ』と⑤の*Lay Chinese Characters*に着目して論を進めたい。

また, INTRODUCTIONの末尾には, “Mr. Yoshitake Saburo, of the School of Oriental Studies, London”への謝辞が確認できる。Gerstle & Cummings (2017)によると, この人物も1921年から1943年までSOASで日本語教師をしており, Isemongerの同僚であったことが分かる。

## 5. 参考文献との比較

本文の記述に従うなら, *The elements of Japanese writing*は, 『文字のしるべ』に強く影響を受けて成立した文献である。そこで, 『文字のしるべ』との比較を行いたい。

『文字のしるべ』は, 明治期に活躍したイギリス人日本研究者Basil Hall Chamberlain (1850-1935) による日本関係の最後の書き下ろしの著作である。同書の記述によると, 1873-1911年という40年にわたるChamberlainの日本滞在経験とその日本語研究の成果に基づいたもので, その英題のとおり「日本語文字学習の実践的入門書」である。目的を問わず外国人が明治の日本で生活するために必要な日本語の表記に関する内容を英語で解説する。岡墻 (2008・2016) などでは, 同書に収録された「基本漢字」が後世の漢字集合の成立と発展に与えた影響に言及している。

同書は特に, 「基本漢字」 (“the Commonest Chinese Characters”) についての記述が大部分を占める。Section 1-12が資料の本編にあたり, 1-3までが概説と口語の初級文法とひらがな・カタカナについてで, 漢字に関する記述は, Section 4 “the four hundred commonest Chinese Characters”の解説から始まり, Section 5以降は漢字の構造, 説話, 地名・人名など, 徐々にテーマが深化する構成となっている。基本漢字は, 出現番号を示すNo.が与えられていて, 初版2350字, 再版2490字を掲出するとする。本文では活字とともに手書き風の「筆写字体」 (“Writing Lesson”) を例示するのが特徴で, また, 日本語の例文や資料も大量に掲載する。同書のSection 4を示すと次図のようである。

---

6 *The elements of Japanese writing*の本文の1905年の版は確認できない。刷年と思われる。

7 同じく1911年の版は確認できない。





(9)

図1の*The elements of Japanese writing*と比較すると、漢字をマス目で囲った表形式で示し、右上に番号を付すなど、よく似ているように見える。しかし、かなり厳密な配置にこだわり、左右のページの内容を番号で対応させる工夫がある*The elements of Japanese writing*の方が、より整った印象を受ける。また、漢字の掲出方法については、『文字のしるべ』は手書きによる筆写字体のみであるのに対し、*The elements of Japanese writing*は活字に音訓や英訳を併記するという違いがある。後者の掲出方法の方が、目当ての漢字についての情報を一度に入手でき、より実用的で、利便性が高いと言える。

続いて、両文献が収録する漢字に言及したい。*The elements of Japanese writing*の収録字は、目次に“400 of the commonest Chinese Characters as originally selected and arranged by Professor BASIL HALL CHAMBERLAIN”とあるように、明らかに『文字のしるべ』のSection 4 “the four hundred commonest Chinese Characters”と関連が深そうである。そこで、この二つの集合の比較を行うことにする。まずは、*The elements of Japanese writing*の配列に従って、それぞれの収録漢字を出現番号とともに比較する。

	EJW	MS	男	0027	0027	及	0054	0066	心	0081	0081
一	0001	0001	女	0028	0028	鳥	0055	0095	思	0082	0082
二	0002	0002	子	0029	0029	牛	0056	0057	忘	0083	0083
三	0003	0003	供	0030	0030	馬	0057	0058	知	0084	0085
四	0004	0004	大	0031	0031	力	0058	0056	事	0085	0090
五	0005	0005	小	0032	0032	其	0059	0060	品	0086	0086
六	0006	0006	手	0033	0033	花	0060	0055	物	0087	0087
七	0007	0007	足	0034	0034	相	0061	0061	工	0088	0088
八	0008	0008	耳	0035	0035	亦	0062	0062	夫	0089	0089
九	0009	0009	目	0036	0036	自	0063	0063	於	0090	0065
十	0010	0010	見	0037	0037	然	0064	0069	文	0091	0091
百	0011	0011	口	0038	0038	次	0065	0067	字	0092	0092
千	0012	0012	如	0039	0039	第	0066	0068	讀	0093	0093
萬	0013	0013	此	0040	0040	東	0067	0051	書	0094	0094
々	0014	0292	火	0041	0042	西	0068	0052	本	0095	0049
日	0015	0015	水	0042	0041	南	0069	0053	屋	0096	0073
月	0016	0016	木	0043	0043	北	0070	0054	立	0097	0099
明	0017	0017	金	0044	0044	以	0071	0064	話	0098	0639
治	0018	0018	土	0045	0045	半	0072	0050	作	0099	0100
何	0019	0019	氷	0046	0059	分	0073	0084	爲	0100	0072
年	0020	0020	山	0047	0046	切	0074	0074	無	0101	0101
天	0021	0021	川	0048	0047	至	0075	0075	用	0102	0102
地	0022	0022	魚	0049	0097	致	0076	0076	之	0103	0103
人	0023	0023	田	0050	0048	非	0077	0077	者	0104	0104
上	0024	0024	只	0051	0070	廿	0078	0079	不	0105	0105
中	0025	0025	今	0052	0071	卅	0079	0080	可	0106	0106
下	0026	0026	虫	0053	0098	世	0080	0078	入	0107	0107

片	0108	0108	去	0153	0153	附	0198	0198	等	0243	0243
側	0109	0109	出	0154	0154	掛	0199	0199	汝	0244	0244
往	0110	0110	生	0155	0147	直	0200	0200	貴	0245	0245
來	0111	0111	新	0156	0157	甲	0201	0201	君	0246	0246
止	0112	0112	古	0157	0156	乙	0202	0202	每	0247	0247
諸	0113	0113	飲	0158	0158	丙	0203	0203	度	0248	0248
荷	0114	0114	食	0159	0159	丁	0204	0204	難	0249	0249
車	0115	0115	茶	0160	0160	番	0205	0220	有	0250	0250
通	0116	0116	多	0161	0161	請	0206	0206	奉	0251	0251
行	0117	0117	少	0162	0162	合	0207	0207	存	0252	0252
禁	0118	0118	風	0163	0163	尋	0208	0208	別	0253	0253
右	0119	0119	雨	0164	0164	常	0209	0209	紙	0254	0254
左	0120	0120	降	0165	0180	學	0210	0210	申	0255	0255
御	0121	0121	春	0166	0166	校	0211	0211	差	0256	0256
休	0122	0122	夏	0167	0167	道	0212	0212	支	0257	0257
處	0123	0123	秋	0168	0168	路	0213	0213	久	0258	0258
煙	0124	0124	冬	0169	0169	町	0214	0214	方	0259	0259
草	0125	0125	石	0170	0173	村	0215	0215	元	0260	0260
商	0126	0195	活	0171	1745	里	0216	0216	吉	0261	0261
業	0127	0128	動	0172	1027	程	0217	0217	凶	0262	0262
菓	0128	0129	假	0173	0355	成	0218	0277	得	0263	0263
製	0129	0130	名	0174	0174	長	0219	0218	失	0264	0264
造	0130	0131	色	0175	0175	早	0220	0935	故	0265	0265
所	0131	0132	黑	0176	0176	戶	0221	0221	先	0266	0266
貸	0132	0133	白	0177	0177	門	0222	0222	頃	0267	0267
家	0133	0134	青	0178	0178	問	0223	0223	朝	0268	0268
時	0134	0135	吹	0179	0179	聞	0224	0224	夕	0269	0269
計	0135	0136	雪	0180	0165	閉	0225	0225	個	0270	0270
旅	0136	0743	圓	0181	0181	開	0226	0226	置	0271	0271
館	0137	0681	円	0182	0182	間	0227	0227	場	0272	0272
代	0138	0450	錢	0183	0183	海	0228	0573	略	0273	0273
理	0139	0138	賣	0184	0126	面	0229	0229	記	0274	0274
店	0140	0140	買	0185	0192	他	0230	0230	是	0275	0275
父	0141	0141	壹	0186	0186	各	0231	0231	在	0276	0276
母	0142	0142	貳	0187	0187	尺	0232	0232	付	0277	0339
兄	0143	0143	參	0188	0188	寸	0233	0233	乘	0278	0278
弟	0144	0144	拾	0189	0189	言	0234	0234	己	0279	0279
兩	0145	0145	使	0190	0489	語	0235	0235	已	0280	0280
親	0146	0146	高	0191	0190	引	0236	0236	帝	0281	0281
內	0147	0148	安	0192	0191	住	0237	0237	國	0282	0282
外	0148	0149	受	0193	0193	居	0238	0238	皇	0283	0286
同	0149	0155	取	0194	0194	主	0239	0239	宮	0284	0283
前	0150	0150	好	0195	0515	客	0240	0240	殿	0285	0284
後	0151	0151	正	0196	0196	吾	0241	0241	共	0286	0285
當	0152	0152	札	0197	0197	我	0242	0242	和	0287	0288

(11)

漢	0288	0289	便	0317	0317	政	0346	0346	身	0375	0375
洋	0289	0287	電	0318	0318	反	0347	0347	志	0376	0376
由	0290	0290	信	0319	0319	對	0348	0348	病	0377	0377
云	0291	0291	局	0320	0320	張	0349	0349	氣	0378	0378
異	0292	0219	權	0321	0321	替	0350	0350	全	0379	0379
號	0293	0293	利	0322	0322	廣	0351	0351	快	0380	0380
交	0294	0698	義	0323	0323	告	0352	0352	京	0381	0381
神	0295	0295	務	0324	0324	返	0353	0353	都	0382	0382
社	0296	0296	老	0325	0325	報	0354	0354	橫	0383	0383
佛	0297	0297	若	0326	0326	玉	0355	0172	濱	0384	0384
閣	0298	0298	加	0327	0327	免	0356	0356	英	0385	0385
能	0299	0299	減	0328	0328	狀	0357	0357	米	0386	0386
也	0300	0300	登	0329	0329	幾	0358	0358	獨	0387	0387
仕	0301	0301	留	0330	0330	未	0359	0359	府	0388	0388
即	0302	0302	殘	0331	0331	末	0360	0360	縣	0389	0389
就	0303	0303	念	0332	0332	善	0361	0361	廳	0390	0390
數	0304	0304	最	0333	0564	惡	0362	0362	區	0391	0391
類	0305	0305	初	0334	0334	宗	0363	0367	平	0392	0392
皆	0306	0306	發	0335	0335	教	0364	0364	民	0393	0393
様	0307	0307	必	0336	0336	師	0365	0137	士	0394	0394
公	0308	0308	悉	0337	0337	會	0366	0365	族	0395	0395
私	0309	0309	省	0338	0338	堂	0367	0366	進	0396	0396
官	0310	0310	或	0339	0333	說	0368	0363	歩	0397	0397
許	0311	0311	夜	0340	0340	氏	0369	0345	改	0398	0398
規	0312	0312	兵	0341	0341	法	0370	0370	良	0399	0399
則	0313	0313	卒	0342	0342	議	0371	0371	凡	0400	0400
定	0314	0314	衣	0343	0343	論	0372	0372			
價	0315	0315	服	0344	0344	變	0373	0373			
郵	0316	0316	着	0345	0927	化	0374	0374			

表 兩文献でのNo.比較

*The elements of Japanese writing*を基準にした場合、全ての漢字が『文字のしるべ』にも含まれている。しかし、表で網掛けを行った次の13字は最も基本的とされるSection 4には出現せず、後のSectionから繰り上がりで収録される<sup>8</sup>。

話 (0639) 旅 (0743) 館 (0681) 代 (0450) 活 (1745) 動 (1027) 使 (0489)  
好 (0515) 早 (0935) 海 (0573) 交 (0698) 最 (0564) 着 (0927)

8 『文字のしるべ』には版により漢字の収録字種や出現位置の異同があるが、Section 4の収録漢字は両版とも同一である。また、丸括弧内の数字は『文字のしるべ』初版 (1899) のものを示した。

「活」のみ1745番という遅い位置からの繰り上がりだが、それ以外は基本的に1000番程度までに含まれている。これらも含めて、400字のうち『文字のしるべ』とは出現番号が異なるものは98字存在した。出現順位、すなわちその漢字の重要性・常用度が見直されたということになるが、それほど大きな変動とは言えないだろう。

これに対して、『文字のしるべ』ではSection 4の最基本漢字でありながら、*The elements of Japanese writing*では採録されなかったのは次の13字である。

万 (0014) 鳴 (0096) 營 (0127) 髮 (0139) 弓 (0170) 矢 (0171) 厘 (0184)  
毛 (0185) 雖 (0205) 才 (0228) 号 (0294) 派 (0368) 妙 (0369)

「万」と「号」は、前に正字が掲げられているため、俗字・異体字にあたるこの字体をあえて掲載しなかったと思われる。また、「厘」と「毛」は、単位としての使用頻度が低いと見なしたのであろう。しかし、その他の字体は、不採用の理由が不明確である。

続いて、『文字のしるべ』と同じく参考文献としてあげられる *Lay Chinese Characters* との比較を行いたい。岡墻 (2016) によると、この文献は『文字のしるべ』作成時に使用された参考文献の一つである。

*Chinese Characters* は、中国出身のイギリス人外交官である Lay (1865-1934) による著作で、1895年に初版が発行された。3版 (1909) まで存在し、版により漢字の収録数には異同があるが、概ね3900字を部首画数順に紹介した漢英辞典の文献である。岡墻 (2016)

( 8 )				( 9 )						
11	齒 SHI. Hs, gumi. Teeth, gumi. Page 155.	龍 LOO, RYU. Ryuun. A dragon, ryuun. Page 155.	龜 KI. Kame. A tortoise. Page 155.	114. 命 YAKU. Mei. A name. Page 155.	No. of stroke.	一 [The 1st Radical]. Tsu, chi. Hsu, hsu. Hsu, hsu. One. 1	1 丁 Tsu, chi. Hsu, hsu. The first character sign, an early character of the sign of 100, etc. 1	七 SHICHU. Nanete. Seven. 1	2 丈 JU. Fute. A measure, fute. 1	三 SAN. Mitsu. Three. 1
12						3 上 U, shu, shu. U, shu, shu. Up, high, superior, etc., to ascend, and up. 3	下 GE, KA. Shu, shu. Shu, shu. Down, inferior, low, to descend, and down. 3	3 不 FU, FU. Fu, fu. Not, a negative verbal particle. 3	4 丂 KAI, KAI. Kai, kai. A hook. 4	丑 CHU. Ushi. The ox, the 2nd of the twelve signs, used of the zodiac, etc. 4
13						4 且 SHI, SHI. Shi, shi. And, in addition, and. 4	不 FU, FU. Fu, fu. Not, a negative verbal particle. 4	世 SE, SEI. Yo. The world, age, times, generation. 4	丘 KI, KI. Oka. A mound, elevation. 4	丙 HEI. Hei. The 3rd of the twelve signs, used of the zodiac, etc. 4
						7 承 JU. Shu, shu. To support, to carry on, to receive, to pass on, to inherit, etc. 7	7 垂 HEI. Nishi, nishi. To be suspended in a line, to hang, to drip, to weep. 7			
						1 丨 KI, KI. Thin, vertical, divisible, a vertical line, representing the pen-stroke, etc. 1	3 中 CHU. Nishi, nishi. The inside, middle, within, in the middle, etc. 3	3 串 KWA, KWA. Tsuzumi, tsuzumi. To string together, to串. 3		
						2 丶 CHI. Shu, shu. A mark, point. 2	2 丸 WA, WA. Maru, maru. Round, a circle, a ball, used in the names of ships, etc. 2	3 丹 TAN. Tani. Red, a pill, ink, an emphatic particle. 3	4 主 SHU. Arai, arai. Influencing, controlling, a lord, ruler, in religion. 4	

図3 *Lay Chinese Characters* (1909, 3版, pp.8-9)

(13)

によると、郵便報知新聞「三千字字引」（1887）との関連が指摘されており、いわばその英語版とも見なすことができる。同書は、扉、Preface、Radicals（部首一覧）、漢字表、Appendix（付録）からなり、漢字表部分が全体の8割以上を占める。同書を示すと図3のとおりである。

図1の*The elements of Japanese writing*、図2の『文字のしるべ』と比較すると、やはりよく類似している。ただし、この文献は、漢字を左上から横に並べ、部首ごとに改行して空白行を設定するという点が異なる。文献の初版の成立順序は、*Chinese Characters*が1895年と最も早く、この3者の中では原典と言える。さらに、『文字のしるべ』が筆写字体のみを示すのに対し、残る2者は活字字体を音訓・意味付きで示すという点での一致が見られる<sup>9</sup>。つまり、最も後発の*The elements of Japanese writing*は、『文字のしるべ』だけではなく、漢字の掲出方法において*Chinese Characters*を模倣したと言える。先行する二つの文献の長所をうまく組み合わせ、より効率的な学習を目指していたIsemongerの姿勢が読み取れるだろう。

収録漢字として、*The elements of Japanese writing*に存在し*Chinese Characters*にないのは、「々」と「円」の2字であった。前者は記号、後者は略字であるため、*Chinese Characters*は収録を避けたとと思われるが、『文字のしるべ』に採録され、*The elements of Japanese writing*にも受け継がれたものである。

## 6. おわりに

以上、本稿ではIsemonger（1929）*The elements of Japanese writing*を紹介し、その分析を行った。同書が収録する漢字のほとんどは、Chamberlain（1899・1905）『文字のしるべ』の最基本漢字に含まれていて、同書の記述どおりの『文字のしるべ』の後継的なものと位置づけてよいだろう。今回は音訓と意味までは比較しなかったが、稿者の観測によると、その大部分が一致していた。『文字のしるべ』から30年の後に発行された漢字文献であるが、時代が進んでもその内容が日本語学習に有効だったということであろう。

ただし、*The elements of Japanese writing*は後発である分、改良点も多い。まず、『文字のしるべ』より、単字の解説が少なく、その分熟語についての記述が多い。また、どの漢字についての解説なのか分かるように、必ず解説には漢字番号に対応した番号を明示するといった工夫がある。さらに、漢字の掲出には、『文字のしるべ』の内容にも影響を与えた*Chinese Characters*の形式を使用している。

漢字文献が収録する字数としては、400字という漢字数は極めて少ない。岡墻（2016）によると、『文字のしるべ』初版（1899）はNo.で2350字、Lay（1895）3899字、「三千

9 特に*Chinese Characters*（1895）は、部首ごとに改行による空白を作らず、漢字が間断なく列挙されているため、見た目の類似はより強い。

字字引』（1887）3252字と、明治期の一般的な漢字文献は、いずれも2000-3000字以上もの漢字を収録する。『文字のしるべ』と同時代の漢字施策には、小学校令施行規則「第三号表」（1900）の教育漢字1200字があり、少し時代が下った普通学務局編『漢字整理案』（1919）は小学校教科書に出現する約2600字、その後の日本の常用漢字は、1923年1962字、1931年1858字、1946年1850字（当用漢字表）、1981年1945字、2010年2136字、と2000字前後で推移している。よって、*The elements of Japanese writing*の収録漢字のみでは日常生活を行う上でも困難が生じると予想される。

しかし、稿者が行った『文字のしるべ』の現存本の調査では、53冊中46冊に使用形跡である書き込みを確認したが、その大部分がSection 4のNo.400までの漢字へのものであった。つまり、外国人が日本語の文字表記を学習しようとする上で、最も“elementary”となるのは、この程度の漢字数であるということだろうか。日本人の感覚とは大きな隔たりがあるように思われるが、翻って、非漢字使用圏の人間による漢字学習にかかる労力の大きさの表れであるとも考えることができる。より簡便なる漢字習得の方法論が、時代を超えて常に望まれ続けているのである。

#### 参考文献（本文中で詳述したものを除く）

1. 大西雅雄（1941）『日本基本漢字』、三省堂
2. 岡墻裕剛編著（2008）『B.H.チェンバレン『文字のしるべ』影印・研究』、勉誠出版
3. 岡墻裕剛（2016）「近代日本における基本漢字集合の系譜—『文字のしるべ』・Chinese Characters・「三千字字引」を中心に—」、加藤重広・佐藤知己編著『情報科学と言語研究』、現代図書
4. 日下部重太郎（1933）『現代國語思潮』續編、中文館書店
5. 楠家重敏（2005）『W・G・アストン 日本と朝鮮を結ぶ学者外交官』、雄松堂出版
6. 山口栄鉄（2010）『英人日本学者チェンバレンの研究 〈欧文日本学〉より観た再評価』、沖積舎
7. GERSTLE, Andrew & CUMMINGS, Alan (2017) *11 Japanese Studies at SOAS, University of London*, 『世界の日本研究』 = “JAPANESE STUDIES AROUND THE WORLD 2017”, 国際日本文化研究センター

付記 本稿は、JSPS 科研費18K00631基盤研究（C）「近代日本における漢字集合の字種・字体の変遷」の成果の一部である。